様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　６ 年　６ 月 ２５ 日現在

機関番号：３２６０５
研究種目：基盤研究(B)（一般）
研究期間：2019～2023
課題番号：１９Ｈ０４３６３

研究課題名（和文）ファシズム期における日独伊のナショナリズムとインテリジェンスに関する人類学史

研究課題名（英文）An Anthropological History of Japanese, German, and Italian Nationalism and Intelligence during the Fascist Era

研究代表者
中生　勝美（NAKAO, KATSUMI）

桜美林大学・リベラルアーツ学群・教授

研究者番号：００２２２１５９

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　12,300,000円

研究成果の概要（和文）：　本研究は、人類学の歴史を学説史の変遷ではなく、人類学者がおかれた社会状況から、彼らがフィールドワークの実践や民族誌の作成過程で、どのように当時の歴史的影響を受けるかという観点から人類学史を描くという問題意識を共通に持ち、1920年代から40年代にかけての戦間期の人類学の歴史を研究した。
　当該研究は、国立民族学博物館の共同研究とかなり重複したメンバーであるため、科研および共同研究の成果として論文集を作成し、次の論文集が民博の刊行物として出版予定である。中生勝美・飯田卓編『ファシズム期の人類学』風響社刊行予定。

研究成果の学術的意義や社会的意義
　本研究の成果は、中生勝美・飯田卓編『ファシズム期の人類学』風響社として、本年に刊行予定であり、現時点で校正まで出版が進んでいる。人類学史として、この時期の出版は、植民地のキーワードで出された出版物はあるが、ファシズム期に絞った論文集は初めてである。
　従来の人類学史は、学説史が中心であり、特にポストコロニアル研究の影響をうけ、他者研究への批判に重点が置かれていた。本研究の学術的独自性は、人類学と戦争、総力戦体制との関係を実証的に明らかにすること。そしてフィールドとアーカイブの結合によって、一般的な歴史記述にとどまらず、他の専門との関係を見渡す鳥瞰的な人類学史を構築することであった。

研究成果の概要（英文）：This study was conducted during the interwar period from the 1920s to the 1940s with a common interest in portraying the history of anthropology not in terms of changes in academic history, but in terms of the social conditions in which anthropologists were placed and how they were affected by the historical influences of the time in their fieldwork practices and ethnographic processes. The study of the history of anthropology was conducted.
Since the members of this research overlap considerably with those of the National Museum of Ethnology, a collection of papers was prepared as a result of the KAKENHI and joint research, and the following collection of papers is scheduled to be published as a Minpaku publication.Katsumi Nakao and Taku Iida (eds.), Anthropology in the Age of Fascism, to be published by Kaze Kyosha

研究分野：文化人類学

キーワード：ファシズム　植民地　アーカイブ　フィールドワーク　インテリジェンス　枢軸国

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１（共通）

１．研究開始当初の背景

本研究の学術的背景として、文書館、大学、研究機関でアーカイブの整備とインターネットでの公開、オーラルヒストリーの集積など、従来の研究環境が大きく変化し、世界各国で 人類学史の見直しが進んでいることが挙げられる。また研究資料の増加に伴い人類学史への関心が抽象的批判から、実証的研究へ移行していることも背景にある。

一般に、戦争関与にかかわる自国の人類学者の活動は、その国の人類学史からタブー視されて、正史から除外されていることが多かった。本研究では、日独伊の三カ国の戦時中の人類学を比較検討することを通じて、総力戦が人類学に与えた影響、戦後の人類学との連続性、政治とアカデミズムの緊張関係、さらに人類学者の研究活動が、いかに戦争遂行に関係していたかを、「三角測量（トライアンギュレーション）」の手法で描き出すことを大きな学術的問いとしている。そのために、個別具体的な事例から戦時期の人類学史を紐解いていく。この時期、当該国は民族意識の高揚から、自民族の文化のルーツや出自を探究する調査に膨大な資金を投入し、海外調査機関を整備し、さらに三国で共同して英雄比較の研究なども企画された。さらに戦時中に設立された博物館は、対外拡張政策を正当化するために使われ、現在も存続している。

日本において、ヨーロッパの占領地域・戦略展開地域に関する調査は、アジア・太平洋地域の民族調査に比べると研究が進んでいない。その点を補うために E の研究者の協力を通じてアーカイブ資料での研究を進める。 フィールドワークに基づく人類学は、資金援助や調査便宜を要する学問である以上、政府や国策企業との利害関係や援助の影響を受けながら発展せざるを得ない側面を有する。こうした時代の影響をうけながら、完全に同調することなく、独自に学問上の価値体系を構築することも必要であり、戦時中の研究者の経験から継承できることもあると考える。つまり、人類学における政治性を明らかにするだけでなく、強い政治的影響下にあった人類学者たちの研究実践を再検討することは、今後、人類学と政治権力との関わりを考える上で重要である過去の反省にとどまらず、フィールド調査の政治性を解明することは、現在の紛争地域や戦時下での人類学調査のあり方を考えるうえでも重要である。

２．研究の目的

本研究の目的は、総力戦の人類学への影響を、枢軸国のナショナリズムと連合国のインテリジェンスと人類学の関係を究明して、新たな枠組みの人類学史を構築することにある。そのため 1) ナショナリズムとして、軍事同盟を締結した日独伊が、民族意識の高揚から促進させた自国の人類学を比較検討する。2) インテリジェンスとして、対敵分析や宣伝のため人類学者を活用したアメリカ・イギリスの研究と、枢軸国とその植民地での戦争と人類学の関係に関する研究とを比較検討する。

従来の人類学史は、学説史が中心であり、特にポストコロニアル研究の影響をうけ、他者研究への批判に重点が置かれ ていた。本研究の学術的独自性は、1)従来抽象的な論評で進められていた人類学と戦争、総力戦体制との関係を実証的に 明らかにすること。2)フィールドでの経験から、人類学史への問題意識を発見し、その解明のためアーカイブ調査を実施することである。いわばフィールドとアー カイブの結合によって、一般的な歴史記 述にとどまらず、他の専門との関係を見渡す鳥瞰的な人類学史を構築することにある。

３．研究の方法

日本人単独だと困難な国外でのアーカイブ研究を、海外の共同研究者との協力で研究することで、従来と異なる人類学史を構築すること。2) 欧米の人類学史 の研究に、日本での研究成果が欠落していることに着目し、EU の研究者と共同研究体制を整えることである。さらに日本語で発表した論文を英訳して持参し、現地での文献調査と並行してワークショップで発表して研究を深化させ、査読のある専門雑誌に投稿して日本の人類学史の成果を欧米に発信し、欧米中心の人類学史の相対化を促す。

４．研究成果

本研究は、コロナの影響を直接受け、当初の目的である海外のアーカイブ調査は、初年度のみ可能となり、その後は海外でもコロナの影響で図書館、公的アーカイブ、博物館がすべて閉館となり、当初の調査予定は大幅に実施が不可能となり、日本国内調査、および文献調査が中心となった。

限られた調査ではあったが、その後コロナで閉鎖された機関に図書館、文書館での電子化が進

み、在宅でもかなりの資料が見れるようになった。当該研究は、国立民族学博物館の共同研究とかなり重複したメンバーであるため、科研および共同研究の成果として論文集を作成し、以下の論文集が民博の刊行物として出版予定である。

中生勝美・飯田卓編『ファシズム期の人類学』風響社刊行予定

序論　　中生勝美

第 1 章　中生勝美「戦前の内蒙古におけるドイツと日本の特務機関：モンゴル学者ハイシッヒと岡正雄」

第 2 章　池田光穂「ナチスドイツ時代における人種衛生学の位相」

第 3 章　田中雅一「戦争、植民地統治、文化人類学　―　1930―1940 年代のフューラー＝ハイメンドルフとリーチの人生をめぐって」

第 4 章　江川純一「民族学者ペッタッツォーニ：ファシスト政権下のイタリア民族学」

第 5 章　飯嶋秀治「ベイトソンの戦時研究：NARA および UCSC 資料の分析から」

第 6 章　泉水英計「農村研究がインテリジェンスになるとき：学説史のなかの『須恵村』、社会史のなかのエンブリー」

第 7 章　飯田卓「両大戦間期の日本民俗学――　フランスとの関係を中心に」

第 8 章　佐藤若菜「鳥居龍蔵の西南中国調査における二つの民族観：中国民族学界への影響に着目して」

第 9 章　角南聡一郎「ミンゾク学と宗教者：近代仏教者を例として」

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計25件（うち査読付論文　8件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　6件）

１．著者名 江川　純一	４．巻 1
２．論文標題 ヴィクトリア時代の宗教研究――その地域性と特殊性	５．発行年 2023年
３．雑誌名 江川純一・山﨑亮監修、『マナ・タブー・供犠　英国初期人類学宗教論集』	６．最初と最後の頁 430-464
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 飯田卓	４．巻 51
２．論文標題 UMESAO Tadao's 100th Anniversary: The Front-runner of Intellectual Production	５．発行年 2021年
３．雑誌名 MINPAKU Anthropology Newsletter	６．最初と最後の頁 12
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 中生勝美	４．巻 2
２．論文標題 戦後日本の人類学史（2）	５．発行年 2022年
３．雑誌名 社会科学研究	６．最初と最後の頁 123-136
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 中生勝美	４．巻 5
２．論文標題 鳥居龍蔵の満蒙調査：慶陵研究の系譜	５．発行年 2022年
３．雑誌名 鳥居龍蔵研究	６．最初と最後の頁 1-17
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 角南聡一郎	4．巻 118
2．論文標題 台湾におけるミンゾク学の萌芽と日本民俗学 ―研究者の動向と物質文化研究に着目して―	5．発行年 2021年
3．雑誌名 人文学報	6．最初と最後の頁 83-96
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 角南聡一郎	4．巻 18
2．論文標題 遺跡の民俗学あるいは伝承の考古学―重畳たるモノとコト―	5．発行年 2021年
3．雑誌名 遺跡学研究	6．最初と最後の頁 3.14
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 角南聡一郎	4．巻 27
2．論文標題 代用品としての陶製煙管	5．発行年 2022年
3．雑誌名 歴史民俗資料学研究	6．最初と最後の頁 209，232
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 白杵陽	4．巻 49
2．論文標題 日本の「ユダヤ陰謀論」の源流を探る ： 四王天延孝を中心	5．発行年 2021年
3．雑誌名 現代思想	6．最初と最後の頁 69，77
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 池田 光穂	4．巻 8
2．論文標題 軍事的インテリジェンスの人類学の射程と倫理	5．発行年 2020年
3．雑誌名 Co*Design	6．最初と最後の頁 1-17
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 井上　大介、額田　有美、池田　光穂	4．巻 1433
2．論文標題 医療人類学からみたCOVID-19 対策の現在：メキシコ、中米、パナマを中心に	5．発行年 2021年
3．雑誌名 ラテンアメリカ時報	6．最初と最後の頁 58-61
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 池田 光穂、井上 大介	4．巻 9
2．論文標題 サイバーパンクに倫理は可能か？ ： 新しいネットワーク心性としてのサイバーパンクの人類学的研究序説	5．発行年 2021年
3．雑誌名 Co＊Design	6．最初と最後の頁 31～45
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.18910/78964	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 中川 義信、中岡 成文、西村 高宏、池田 光穂、山中 浩司	4．巻 31
2．論文標題 生きるための社会デザインを考える	5．発行年 2021年
3．雑誌名 保健医療社会学論集	6．最初と最後の頁 9～15
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 中岡 成文、西村 高宏、池田 光穂	４．巻 31
２．論文標題 哲学カフェとコミュニケーションデザイン	５．発行年 2021年
３．雑誌名 保健医療社会学論集	６．最初と最後の頁 16～25
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 中生　勝美	４．巻 1
２．論文標題 戦後日本の人類学史（１）	５．発行年 2021年
３．雑誌名 社会科学研究	６．最初と最後の頁 139-160
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 飯田　卓	４．巻 85（2）
２．論文標題 財団法人日本民族学協会（1942年～1964年）と附属民族学博物館（1937年～1962年）――アーカイブズ資料をとおしてその性格をふり返る	５．発行年 2020年
３．雑誌名 文化人類学	６．最初と最後の頁 336-345
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 飯田　卓	４．巻 172
２．論文標題 未来に開かれた記憶装置――梅棹アーカイブズと梅棹資料室	５．発行年 2020年
３．雑誌名 季刊民族学	６．最初と最後の頁 40-47
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 佐藤　若菜	4．巻 34
2．論文標題 1978年以降の日中民間交流に関する人類学的考察：ミャオ族の民族衣装に着目して	5．発行年 2020年
3．雑誌名 ANNUAL REPORT OF THE MURATA SCIENCE FOUNDATION	6．最初と最後の頁 628-634
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 中生勝美	4．巻 11
2．論文標題 中国キリスト教の研究状況と課題	5．発行年 2020年
3．雑誌名 桜美林論考　法・政治・社会	6．最初と最後の頁 31－49
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 栗本英世	4．巻 7
2．論文標題 人間科学型の共創および共創知をめざして	5．発行年 2020年
3．雑誌名 未来共生学	6．最初と最後の頁 3-28
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 池田光穂	4．巻 6
2．論文標題 本多勝一と山口昌男の噛み合わない論争：1970年の文化人類学と報道ジャーナリズム	5．発行年 2019年
3．雑誌名 CO*Design	6．最初と最後の頁 13-32
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 池田光穂	4．巻 7
2．論文標題 Repatriation of human remains and burial materials of Indigenous peoples in Japan : Who owns their cultural heritages and dignity?	5．発行年 2020年
3．雑誌名 CO*Design	6．最初と最後の頁 1-16
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 泉水英計	4．巻 94
2．論文標題 柳田国男･折口信夫と文化人類学 『民族学研究』沖縄研究特集を焦点に	5．発行年 2020年
3．雑誌名 神奈川大学評論	6．最初と最後の頁 100-109
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 佐藤若菜	4．巻 88（3）
2．論文標題 ２．「手本の複製／見本からの創造」からみた手仕事の真正性：中国貴州省のミャオ族に おける手刺繍と機械刺繍の位置づけ	5．発行年 2023年
3．雑誌名 文化人類学	6．最初と最後の頁 505-522
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 佐藤若菜	4．巻 40
2．論文標題 民族衣装への部分的関心にもとづく収集：中国貴州省の事例から	5．発行年 2024年
3．雑誌名 arts	6．最初と最後の頁 46-55
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 中生勝美	４．巻 1号
２．論文標題 戦後日本の人類学史（１）	５．発行年 2021年
３．雑誌名 社会科学研究	６．最初と最後の頁 123-136
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計32件（うち招待講演　9件／うち国際学会　13件）

１．発表者名 佐藤若菜
２．発表標題 「プリント化」する伝統的手刺繍：中国貴州省ミャオ族の事例から
３．学会等名 日本文化人類学会第56回研究大会
４．発表年 2022年

１．発表者名 佐藤若菜
２．発表標題 Inheritance of Handcrafting Techniques for Ethnic Costumes: Absence of Young People Due to Labor Migration from Rural China
３．学会等名 International Colloquium on Line Cultural Transmission against Collective Amnesia:Bodies and Things in Heritage Practices（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2022年

１．発表者名 江川純一
２．発表標題 IAHRローマ大会におけるペッタッツォーニとヴァティカン
３．学会等名 日本宗教学会
４．発表年 2022年

１．発表者名 田中雅一
２．発表標題 女性が兵士になるということ
３．学会等名 神戸女学院大学女性学インスティチュート主催特別講演会（招待講演）
４．発表年 2022年

１．発表者名 田中雅一
２．発表標題 メモリアル・ファッション:メモリーワークにおける徹底操作と行動化をめぐって
３．学会等名 科研研究会（招待講演）
４．発表年 2022年

１．発表者名 飯田卓
２．発表標題 海を越えて続く鉄路――現代に生きる渋沢敬三のフィールドワーク観
３．学会等名 日本民俗学会第73回年会公開シンポジウム「海が結ぶ日本と世界――渋沢敬三と日本常民文化研究所（招待講演）
４．発表年 2021年

１．発表者名 泉水英計
２．発表標題 American Geographer Transplants Japanese Walking Tractor into Korean Soil: Cold War Rural Research in East Asia as a Carrier of Agricultural Technology
３．学会等名 History of Science Society Annual Meeting Chicago（国際学会）
４．発表年 2021年

１．発表者名 泉水英計
２．発表標題 ブラジルの日本人開拓地レジストロー日本民族の移住は成功したのか
３．学会等名 比較民俗学会国際学術大会（国際学会）
４．発表年 2021年

１．発表者名 泉水英計
２．発表標題 Postwar Okinawa and TB Control Caught between the United States and Japan
３．学会等名 Association for Asian Studies Annual Conference（国際学会）
４．発表年 2022年

１．発表者名 池田　光穂
２．発表標題 霊性と物質性の研究倫理：先住民が訴える遺骨副葬品返還運動
３．学会等名 日本文化人類学会第54 回 研究大会
４．発表年 2020年

１．発表者名 泉水　英計
２．発表標題 Banal Objects and a Causative Theory of Behavior among Okinawan Shamans
３．学会等名 AAS-in-Asia 2020（国際学会）
４．発表年 2020年

１．発表者名 泉水　英計
２．発表標題 米国人歴史家の生きた東アジアの境界領域－G．H．カーと台湾・沖縄
３．学会等名 国際日本文化研究センター第54回国際研究集会「帝国のはざまを生きる（国際学会）
４．発表年 2020年

１．発表者名 中生勝美
２．発表標題 鳥居龍蔵の満蒙研究
３．学会等名 国立民族学博物館共同研究会・鳥居龍蔵記念博物館
４．発表年 2020年

１．発表者名 中生勝美
２．発表標題 戦後日本的人類学史
３．学会等名 中日人類学学術交流研討会:中央民族大学民族学社会学学院（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 佐藤若菜
２．発表標題 日本におけるミャオ族研究
３．学会等名 中日人類学学術交流研討会:中央民族大学民族学社会学学院（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 佐藤若菜
２．発表標題 鳥居龍蔵の西南中国調査
３．学会等名 国立民族学博物館共同研究会・鳥居龍蔵記念博物館
４．発表年 2020年

１．発表者名 佐藤若菜
２．発表標題 中国貴州少数民族の服飾文化：ミャオ族の事例から
３．学会等名 共立女子大学・短期大学総合文化研究所「中国貴州少数民族の服飾文化と歌文化」
４．発表年 2019年

１．発表者名 佐藤若菜
２．発表標題 収集・分析・撮影・展示される民族衣装：日本が中国少数民族文化に与えた影響に着目して
３．学会等名 国立民族学博物館共同研究会「伝統染織品の生産と消費：文化遺産化・観光化によるローカルな意味の変容をめぐって」
４．発表年 2019年

１．発表者名 江川純一
２．発表標題 イタリア型政教関係の特殊性―「ライチタ」と「ライシテ」
３．学会等名 日本宗教学会
４．発表年 2019年

１．発表者名 池田光穂
２．発表標題 Repatriation of human remains and burial materials: Who owns cultural heritage and dignity?
３．学会等名 The Spring meeting of the Korean Society of Cultural Anthropology（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 池田光穂
２．発表標題 pirituality and Materiality among Human Remains--Reflection from repatriation activism of the Ainu and the Ryukyu
３．学会等名 第92回日本社会学会大会
４．発表年 2019年

１．発表者名 池田光穂
２．発表標題 Stealing remains is criminal”: Ethical, Legal, and Social Issues of the Repatriation of Remains to Ryukyu Islands, southern Japan
３．学会等名 Annual Meeting of American Anthropological Association（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 池田光穂
２．発表標題 霊性と物質性：アイヌと琉球の遺骨副葬品返還運動から
３．学会等名 第三回豊中地区研究交流会
４．発表年 2019年

１．発表者名 飯田卓
２．発表標題 Ethnology in Interwar Japan: Keizo Shibusawa's Ethnographic Collection and Its Surrounding Currents
３．学会等名 Conference au Musee d’Ethnographie de Geneve（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2020年

１．発表者名 佐藤若菜
２．発表標題 「プリント化」する伝統的手刺繍：中国貴州省ミャオ族の事例から
３．学会等名 日本文化人類学会第56回研究大会
４．発表年 2022年

１．発表者名 佐藤若菜
２．発表標題 鳥居龍蔵の西南中国調査における２つの民族観：中国民族学界への影響に着目して
３．学会等名 日本文化人類学会第57回研究大会
４．発表年 2023年

１．発表者名 中生勝美
２．発表標題 戦前の内蒙古におけるドイツと日本の特務機関：モンゴル学者ハイシッヒと岡正雄
３．学会等名 日本文化人類学会第57回研究大会
４．発表年 2023年

１．発表者名 中生勝美
２．発表標題 日本的蘭嶼研究：鳥居龍蔵・鹿野忠雄・津波研究
３．学会等名 International Island Forum of Environmental Governance Network and Sustainable Development for Pongso No Tao（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2023年

１．発表者名 中生勝美
２．発表標題 新發現　千千岩助太郎攝影的記録電影（1937年）
３．学会等名 国際排湾学会（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2023年

１．発表者名 飯田卓
２．発表標題 両大戦間期の日仏交流――アンドレ・ルロワ=グーランと日仏会館、国際文化振興会
３．学会等名 日本文化人類学会第57回研究大会
４．発表年 2023年

１．発表者名 飯嶋秀治
２．発表標題 ベイトソンの戦時研究－NARAおよびUCSC資料の分析から－
３．学会等名 日本文化人類学会第57回研究大会
４．発表年 2023年

１．発表者名 角南聡一郎
２．発表標題 ミンゾク学と宗教者 －近代仏教者を例として－
３．学会等名 日本文化人類学会第57回研究大会
４．発表年 2023年

〔図書〕　計7件

１．著者名 中生　勝美	４．発行年 2023年
２．出版社 風響社	５．総ページ数 360
３．書名 中国農村の生活世界	

１．著者名 田中雅一	４．発行年 2022年
２．出版社 私家版	５．総ページ数 116
３．書名 私流文化人類学入門　語ったことと書いたこと(1981-2022)	

１．著者名 泉水英計	４．発行年 2022年
２．出版社 御茶の水書房	５．総ページ数 380
３．書名 近代国家と植民地性	

１．著者名 池田光穂、山福朱実	４．発行年 2020年
２．出版社 大阪大学出版会	５．総ページ数 368
３．書名 暴力の政治民族誌	

１．著者名 松島 泰勝、山内 小夜子	４．発行年 2020年
２．出版社 耕文社	５．総ページ数 256
３．書名 京大よ、還せ	

１．著者名 佐藤若菜	４．発行年 2020年
２．出版社 京都大学学術出版会	５．総ページ数 310
３．書名 衣装と生きる女性たち：ミャオ族の物質文化と母娘関係	

１．著者名 中生 勝美	４．発行年 2023年
２．出版社 北樹出版	５．総ページ数 157
３．書名 異文化へのアプローチ ： 文化人類学入門	

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	田中　雅一 (TANAKA MASAKAZU) (00188335)	国際ファッション専門職大学・国際ファッション学部・教授 (32828)	
研究分担者	栗本　英世 (KURIMOTO EISEI) (10192569)	大学共同利用機関法人　人間文化研究機構本部・大学共同利用機関等の部局等・理事 (82651)	
研究分担者	泉水　英計 (SENSUI HUDEKAZU) (20409973)	神奈川大学・経営学部・教授 (32702)	
研究分担者	飯田　卓 (IIDA TAKU) (30332191)	国立民族学博物館・グローバル現象研究部・教授 (64401)	
研究分担者	臼杵　陽 (USUKI YOU) (40203525)	日本女子大学・文学部・教授 (32670)	
研究分担者	江川　純一 (EGAWA JUNICHI) (40636693)	明治学院大学・国際学部・研究員 (32683)	
研究分担者	角南　聡一郎 (SUNAMI SOUICHIRO) (50321948)	神奈川大学・国際日本学部・准教授 (32702)	
研究分担者	飯嶋　秀治 (IIJIMA HIDEJI) (60452728)	九州大学・人間環境学研究院・教授 (17102)	

６．研究組織（つづき）

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	佐藤　若菜 (SATOU WAKANA) (90788928)	京都女子大学・現代社会学部・准教授 (34305)	
研究分担者	池田　光穂 (IKEDA MITSUHO) (40211718)	大阪大学・ＣＯデザインセンター・名誉教授 (14401)	
研究分担者	山田　仁史 (YAMADA HITOSHI) (90422071)	東北大学・文学研究科・准教授 (11301)	削除：2021年2月16日

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関